

ふるさと  
と  
長谷  
村



長野県上伊那郡長谷村 閉村記念誌



熊堂沢の氾濫により、市野瀬村中に土石流が流入



戸草集落の流出、森林鉄道も全線にわたって決壊し、以後廃軌となる



36災害時の三峰川

## 三六災害と長谷村

その年は空梅雨に終わるのではないかと予想されていた昭和36年、6月24日からの雨は25日も26日になっても降り続き、27日正午からはさらに雨足が強くなって、296ミリ(伊那里学校調)という驚くべき降雨量を記録しました。

山崩れ、崖崩れがいたるところで発生し、三峰川に注ぐ各河川は異常な出水と土石流を交えて氾濫し、各所に被害をもたらしました。家屋は倒壊し、あるいは床上床下に水がつき、農地は流出し、道路は決壊しました。そして、27日夕方にはついに伊那里地区への交通が途絶えました。

いわゆる三六災害は、伊那谷の各地で甚大な被害をもたらし、長野県下では、136人もの犠牲者を出し、被害総額は340億円にものぼった大災害です。

それまで平穏であった戸草集落は三峰川の氾濫で流出し、奥浦、宇津木集落では地すべりが発生、市野瀬では熊堂沢の土石流で集落が一時川と化し、いたるところで家屋が浸水しました。長谷村だけでもその被害は10億円にも達しました。

完成した美和ダムは、下流域の被害を最小限に食い止めたものの、合併間もない長谷村は大きな痛手を被ってしまったのです。

ダム建設で土地が水没し、村を離れた人があることは先にも触れました。多くの犠牲をはらって完成したダムですが、ダムより上流では、災害のたびに被害を被ってきたのです。

三六災害という未曾有の大災害から21年後の昭和57年7月31日から8月1日にかけて台風10号が来襲し、三峰川流域では、580ミリの降雨を記録しました。この大雨により村営の保養センター仙流荘も半壊、南アルプス林道も被害を受けバスの運休を余儀なくされ、被害総額は33億円にのぼりました。

さらに復興間もない58年9月12日には、台風18号が来襲し、28億円余の被害を出しました。

表紙 切り絵・柳沢京子

—参考文献

- 『長谷村誌 第一巻 民俗編・人物編』／長谷村誌刊行委員会  
『長谷村誌 第二巻 自然編・現代社会編』／長谷村誌刊行委員会  
『長谷村誌 第一巻 歴史編』／長谷村誌刊行委員会  
『二十一世紀への「ゆずり葉」南アルプスの村、長谷村』／長谷村  
『藍深き湖に映え 美和ダム完成40周年記念写真集』／長谷村  
『村政要覧』／長谷村  
『広報はせ』／長谷村  
『はじめての三峰川探検』／国土交通省三峰川総合開発工事事務所  
『ダムニュース戸草美和 43号』／国土交通省三峰川総合開発工事事務所  
『美和ダム再開発事業の概要』／国土交通省三峰川総合開発工事事務所  
『美和ダム再開発事業洪水バイパス施設写真集』／国土交通省三峰川総合開発工事事務所  
『空から見た天竜川』／国土交通省天竜川上流河川事務所  
『天竜川写真集』 国土交通省浜松河川国道事務所  
『新しい「伊那市」くらしのガイド』／伊那市・高遠町・長谷村合併協議会  
『信毎年鑑』2000～2005／信濃毎日新聞社  
『日本史年表・地図』／吉川弘文館  
『世界史年表・地図』／吉川弘文館  
『天竜川散策絵巻』／サンクチュリアジャパン  
『表とグラフでみる日本のすがた2006』／(財)矢野恒太記念会

—ウェブサイト

長谷村／伊那市／長野県／静岡県／磐田市／浜松市／  
伊那市・高遠町・長谷村合併協議会

---

## 長谷村閉村記念誌 ふるさと長谷村

平成18年3月30日 発行

発行 長野県上伊那郡長谷村

企画・編集 株式会社エスオーケイビジョン

---